

愛知医科大 (I) チーム の発表

東北道前沢SAにおける医療救護班の統括調整活動報告

—唯一沿岸部に行けなかったチームの24時間—

チームビルディング&ブリーフィング

- ▶ リーダー：和気
- ▶ リーダー専属調整員：豊國
- ▶ クロノロ担当（システム入力）：森谷
- ▶ クロノロ担当（ライティングシート）：辻村
- ▶ 通信担当：宮崎
- ▶ 受付担当：藤田
- ▶ フリーで動く：佐藤

車両配置

カラーラフィルダー： Ⓜ和気、辻村、 Ⓜ豊國
プリウス： Ⓜ森谷、藤田、 Ⓜ宮崎、 Ⓜ佐藤



準備前の資機材確認

▶ 個人装備

※前日のGWを参考にしています！

▶ チーム装備

※トイレは使えるの??かなり重要でした・・・ラップポンがないので道端の覚悟も。



出発・・・の前の記念撮影



付与された状況に基づくルート进行①

①高速道路 乗る：紫波IC ～ 降りる：花巻南IC

※途中のSA、状況確認できませんでした・・・不覚(;▽;)

②一般道 花巻南ICを降りたら、国道4号をひたすら南下

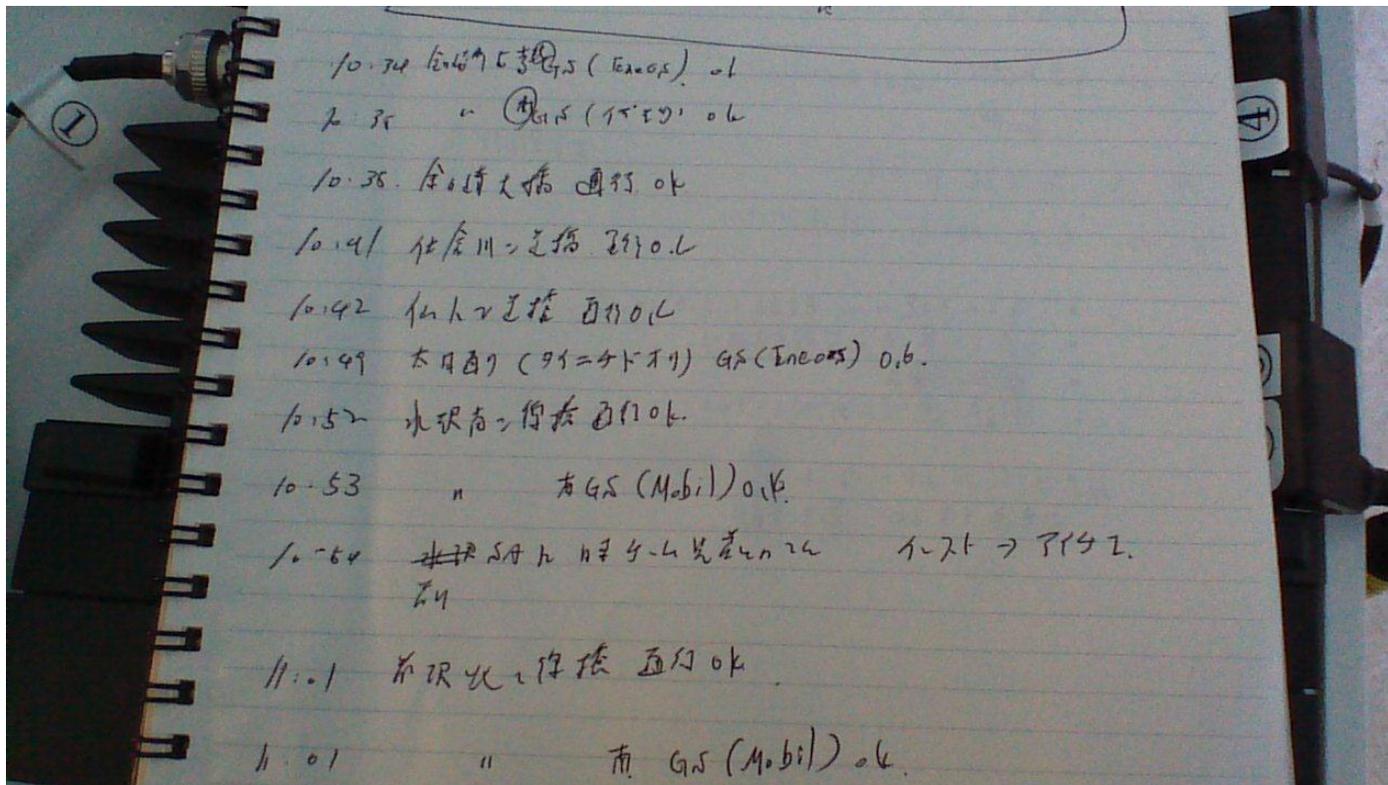
※途中、本物のネズミ取りやってみました(°Д°)

コントローラーのお2人、職務質問されませんでしたか？



付与された状況に基づくルートを走行②

- ②一般道続き 国道4号をひたすら南下しながら、途中のGSや橋の状況をちくいちメモメモ(..)φメモメモ



現地に到着してのカウンターパートとの折衝 (先着日赤岩手支部 + 前沢SA支配人等)

- ▶ 本部を設置する場所、寝る場所を確保できました。



設置場所はヘリポート！！ 日赤エアーテント設営

日赤岩手県支部のエアーテントと扇風機に感謝です(*´艸`)
同時に自分たちの宿泊テントも設営



現地に到着してのリエゾンとの折衝（自衛隊・消防・通信会社等）

- ▶ 和気リーダーが、Softbank 孫さんと通信の調整してます！
- ▶ この裏では、別動隊が岩手医科大本部に到着報告してます。



通信機器等の設置

- ▶ 場所が確保できたら資機材の設置！！



東北道水沢SA医療救護班調整本部設置①

～主な業務～

- ▶ クロノロ（記録）を開始（ライティングシート&電子データ化して保存）



東北道水沢SA医療救護班調整本部設置②

～主な業務～

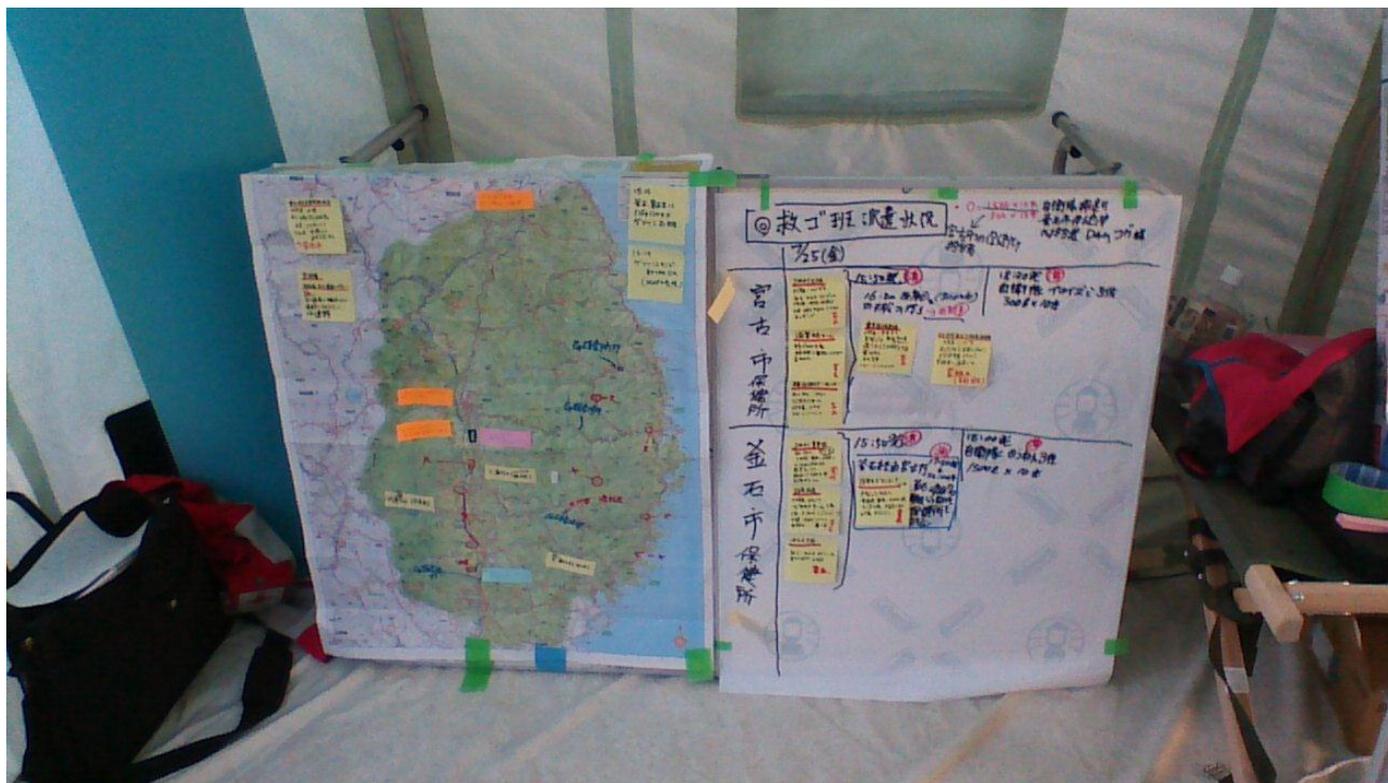
▶ 救護班への情報提供



東北道水沢SA医療救護班調整本部設置③

～主な業務内容～

- ▶ マッピングにより情報の視覚化
- ▶ どこにどの班を派遣したかも分かるように工夫



東北道水沢SA医療救護班調整本部設置⑤

～主な業務内容～

▶ 救護チーム

(JMAT, TMAT, DPAT, 透析チームetc..)

ボランティア団体

怪しい外国人の登録

学生団体

次々やって来る医療チームの受付
＋
チーム情報把握



到着したチームからはどんな情報を得た??

救護班の構成・連絡先（責任者）

連絡先

診療科目

医療資機材の内容

活動可能な日数

交通手段

調整のために重要



怪しい外国人はもちろん・・・



Il fait chaud!!!!

リーダーの役割にはマスコミ対応も！

スマートなマスコミ対応!(^^)!



そして・・・束の間の休息①

- ▶ 夕食は豪華にアキモト（栃木県の企業）のパン！パサパサしてない。



束の間の休息②

- ▶ 寝る場所も確保できた！・・・のに、状況は継続してます(;▽;)



束の間の休息③

▶ それでもくつろぎのひと時



前沢SAエリア愛知医科大チームの反省点①

1. コントローラーから

- ▶ 高速道路の情報を発信できていなかった。
- ▶ 緊急車両の事前登録はしたが、その場で発券してもらうのを忘れた。
- ▶ 資機材準備等(ジェネレーター、エアーテント)、バックアップ体制の構築。
- ▶ 本部の導線・エントランスの制限をする等の工夫。
- ▶ 他機関(自衛隊、消防等)の機能を理解した連携。
- ▶ 3時間くらいで本部機能の立て直しを図ってもよい。

前沢SAエリア愛知医科大チームの反省点②

2. メンバーから

- ▶ 衛星を設置するなら、1台につき1名、専従の要員をつけた方が良かった。
- ▶ クロノロはテントの中で行っていたので、外で打合せをすると情報がとりにくい。近くで調整をしてもらおうと、情報がとりやすくなっていった。
- ▶ 最初にメールアドレスを伝えることができず、救護班登録用紙の印刷に戸惑ってしまった。応用して、自分たちで用紙の形式を作成してもよかった。
- ▶ ロジの大変さがわかり、次からは優しくしようと思った。(*'▽')by看護師

最後に：NEXCO東日本東北支社 管理事業部 板倉様～陸のSCU～

- ▶ 他の民間企業の話をしきくと、情報は持っているがそれを被災地や必要な機関に届ける手段がないことが問題であることが分かってきた。
- ▶ 高速道路のSA等の設備を防災拠点・災対の前線基地として活用できるよう、各関係機関と調整をしている。
- ▶ 守谷SAを第1号として設置したが、首都直下地震の被害想定を考えると、さらに複数の拠点が必要だと考える。
- ▶ 高速道路を、単なる道路としてだけ活用するのではなく、各防災機関の災対の人・物・情報の結節機関として有効に活用することはできるよう計画している。
- ▶ そのためには、このような訓練の取り組みと、そこに参加された皆さまのご協力が必要です。

沿岸部には行けませんでしたでしたが、充実した1日を過ごすことができました！

